

-臨床研究に関する情報および臨床研究に対するご協力のお願ひ-

現在、足立医療センター泌尿器科では、本学で保管している診療後の診療情報等を使って、下記の研究課題を実施しています。

この研究課題の詳細についてお知りになりたい方は、下欄の研究内容の問い合わせ担当者まで直接お問い合わせください。なお、この研究課題の研究対象者に該当すると思われる方の中で、ご自身の診療情報等を「この研究課題に対しては利用・提供して欲しくない」と思われた場合にも、下欄の研究内容の問い合わせ担当者までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

[研究課題名] 進行性・転移性後腹膜原発軟部肉腫に対する治療についての後ろ向き検討

[研究対象者]

2010年1月～2022年1月までの間に、東京女子医科大学病院泌尿器科・東京女子医科大学東医療センター泌尿器科・東京女子医科大学附属足立医療センター泌尿器科で進行性もしくは転移性の後腹膜原発軟部肉腫と診断され、手術もしくは抗癌剤や分子標的薬などの薬物治療を受けた方、あるいは2022年1月以降も同疾患で通院されている方

[利用している診療情報等の項目]

診療情報等：診断名、年齢、性別、血液検査・尿検査データ、画像検査所見、膀胱癌の組織型、（手術を受けた場合）手術後の再発および生存の有無、（薬物治療を受けた場合）さらなる進行までの期間および生存期間、等

[利用の目的] （遺伝子解析研究： 無 ）

筋肉や骨から発生するがんである軟部肉腫は、診断・治療をうけている患者さんが人口10万人あたり約3人と非常にまれながんです。さらにそのうち腎臓などの体の背中側の臓器（後腹膜臓器と呼ばれます）にできるがん（後腹膜肉腫）はさらにまれであるとされています。

後腹膜肉腫は進行するまで無症状であることも多くため、発見された段階でいくつもの臓器を巻き込んでいたり手術が難しい場合が多く存在します。また、手術で取りきった場合でも再発率は高いとされており、治療に課題が多く残されているがんです。また、どのような薬物治療の効果が高いのかなどは患者さんにとって重要な情報ですが、患者さんの数が少ないため有力な情報（エビデンスと呼ばれます）が少ないのが現状です。

当科では、後腹膜肉腫に対して手術と薬物治療を上手く組み合わせる診療にあたるように取り組んでいます。これまでの患者さんの治療がどのように行われ、どの方法が良いかを明らかにすることは非常に重要です。本研究では、患者さんに余分な負担を与えることなくこれまでの診療データを分析することで、今後のより良い選択ができることを目的としています。

[利用期間] 倫理委員会承認後より2027年2月までの間（予定）

[この研究での診療情報等の取扱い]

本学倫理審査委員会の承認を受けた研究計画書に従い、お預かりした診療情報等には氏名、生年月日等の情報を削り、どなたのものなのかわからないように安全管理措置（匿名化）をしたうえで取り扱っています。

[研究責任者、および、研究内容の問い合わせ担当者]

研究責任者：東京女子医科大学附属足立医療センター 部署名 泌尿器科 職名 教授 氏名 近藤恒徳

研究内容の問い合わせ担当者：東京女子医科大学附属足立医療センター 部署名 泌尿器科 氏名 石山 雄大

電話：03-3857-0111 （内線 31283）（応対可能時間：平日9時～16時）

ファックス：03-6807-1930 Eメール：ishiyama.yudai@twmu.ac.jp